

【全訳】

サクラはアメリカの高校で勉強しています。ベン、ケビン、メイは彼女のクラスメートです。彼女たちは放課後教室で話しています。

ベン：サクラ、この学校でのきみの生活はどうか？

サクラ：すばらしいわ！あなたたちのようなよい友だちがたくさんできたし、先生方もみなとても親切だわ。学ぶべきことはたくさんあるけど、私はこの学校で勉強することを楽しんでいるの。

ケビン：それはよかった。ところで、来月「グリーン」イベントがあるんだ。それに参加すれば、きっとこの学校についてもっと知ることができて、ここでの生活をもっと楽しむことができると思うよ。

サクラ：「グリーン」イベント？それはどんな種類のイベント？

ケビン：このイベントでは、ほかの人のためのボランティア活動や自然について学ぶための興味深い活動といったいくつかの活動があるんだ。この学校では10年間こうしたイベントを行ってきているんだ。それは毎年11月に行われるんだよ。

メイ：ここに今年のイベントのプログラムがあるわ。

日付	イベント名	内容
11月1日	自分を緑にしよう！	校内で緑色のものを身につける
11月5～7日	清掃ボランティア活動	学校の近くの川を掃除する
11月13日	浜辺ツアー	自転車で浜辺に行き、そこで昼食
11月21日	博物館ツアー	博物館に行き、森について学ぶ
11月25～27日	本のボランティア活動	貧しい国の子どもたちに本を送る／生徒たちからお金を集める

サクラ：わあ、5つの異なるイベントがあるのね。自由にいくつかイベントを選んで参加することができるの？

メイ：ええ。時間があればすべてのイベントに参加することができるわ。実際、昨年私はそうしたのよ。

ベン：イベントの初日には、先生と生徒たちが何か緑色のものを身につけるんだ。すべての生徒はこのイベントに参加しなければいけないんだよ。サクラ、何か緑色の身につけるものを持っている？

サクラ：ええと、持っていないと思うわ。何か買わなければいけないの？

メイ：いいえ、買わなくてもいいのよ。私がいくつかよいものを持っているから、1つあなたに貸すことができるわ。私の緑色の帽子をかぶってみるのはどうかしら？

サクラ：ありがとう。それをかぶってイベントを楽しみたいわ。じゃあ、ほかのイベントについて教えて。

ベン：わかった。ボランティア活動が2つあるんだ。川を掃除することと、貧しい子どもたちに本を送ることだよ。ほくは両方に参加するつもりなんだ。ほくはほかの人のために何かすることは重要だと思っているんだ。

サクラ：あなたの言う通りだわ。ボランティア活動をすることは私たちをより思いやりのある人にしてくれると思うの。私は日本で病院を訪れてボランティア活動を少ししたことがあるわ。それは私にとってもっともよい経験の1つだったの。私はこのボランティア活動の1つに参加したいわ。

ケビン：それなら、このボランティア活動はどうか？貧しい国の子どもたちを手助けすることができるよ。ほくはそれに参加するつもりなんだ。

サクラ：それはよさそうだけど、1つ質問があるわ。なぜ私たちは生徒たちからお金を集めなければならないの？本を買うためにお金が必要なの？

ケビン：ちがうよ。ほくたちは本を買わないよ。家から本を持ってくるんだ。ただ、本を海外に送るためにお金が必要なんだ。

サクラ：なるほどね。私はクラスメートたちからお金を集めることができると思うけど、持ってくる本がないわ。私は何をすべきかな？

ベン：心配しないで。ほくは昨年このボランティア活動に参加したよ。たくさんの異なる仕事があった。たとえば、きみはほかの生徒たちが学校に持ってきた本を検査することができる。ケビンとほくはこれに参加するし、きみを助けることができるよ。

サクラ：わかった。いっしょに作業しましょう。

ベン：よかった。ええと、もう1つのボランティア活動に参加するのはどうか？

サクラ：私はそれにも興味があるけれど、11月8日に理科と数学の試験があるの。その前に2、3日間そのために勉強をしなければならないから、そのボランティア活動はできないの。

ケビン：ほら、これを見て。このイベントは新しいね。この活動はいちばんわくわくすると思うよ。いっしょにこれに参加しないかい？きっと浜辺でとても楽しい時を過ごせるよ。自転車に乗るのは楽しいし、外で食事をすると食べ物がいおいしくなるよ。

ベン：それはよさそうだね。ほくは賛成だ。デザートにケーキを持っていくよ。きみたちは食べたい？

メイ：あなたのお父さんがそれを作るのよね。もしそうなら、ええ、私は食べたいわ。私はあなたのお父さんのケーキが大好きよ。サクラ、行く？ベンのお父さんは菓子職人なのよ。

サクラ：本当？私はこのイベントに参加してあなたのお父さんのケーキを食べてみたいわ。

ベン：わかった。4人に十分なケーキをお父さんに頼むよ。それじゃ、この文化イベントはどうか？だれか参加する？

メイ：私は参加しないわ。私は昨年このイベントに参加して、ちょっと退屈だったの。グループで博物館に行くのはあまり楽しくないって学んだわ。

ケビン：きみに賛成だね。ほくたちはもし行きたいなら個人的にそこに行くべきだよ。

サクラ：わかった、みんな。あなたたちのアドバイスに従うわね。さあ、この3つのイベントに参加することに決めた。覚えておくために私のスマートフォンに入力するわね。

【英語 問 8 全訳】

モモとシホは中学生です。ブラウン先生は彼らの英語の先生です。彼らは、高校の選び方について話をしています。
 ブラウン先生：やあ、モモ、シホ。何を見ているのかな？
 モモ：こんにちは、ブラウン先生。インターネットで高校のウェブサイトを見ているのです。担任のタナカ先生から、近いうちに自分たちの学校を決めるべきだと言われているのです。
 ブラウン先生：ああ、なるほど。何かよい情報を見つけたかな？
 シホ：ええ、見つけました。いくつかの学校が「学校説明会」を行うことがわかりました。
 ブラウン先生：それは何、シホ？
 シホ：それは学校を紹介する説明会のことです。私たちはいくつかの学校を訪れて、学校の紹介を聞きたいのです。この紙を見てください。

説明会	10/31 (日)...	カミハマ高校	13時00分
	11/13 (土)...	シオイリ高校	15時00分
	11/19 (金)...	ミハマ高校	18時00分

シホ：これはモモが書いてくれた説明会に関する情報です。
 ブラウン先生：それで、きみは3校を訪れるつもりなの、シホ？
 シホ：いいえ。モモは3校すべてに行きますが、私はミハマ高校には行けません。その日はクラブ活動があるので。
 ブラウン先生：あれ、ミハマ高校の開始時刻はとても遅いよね？
 モモ：ええ。でも、保護者には都合がよいのですよ。だから、私は父といっしょに行くことができます。
 そのときモモとシホのクラスメートのカズが彼らに加わります。
 カズ：こんにちは、何をしていますのですか、ブラウン先生？
 ブラウン先生：やあ、カズ。私たちは高校を紹介する説明会について話しているよ。シホとモモは学校の話を聞きに行くんだ。
 カズ：本当ですか？
 ブラウン先生：きみはどこか学校を訪問することを考えているのかな、カズ？
 カズ：思いもつかなかったなあ。あの、ブラウン先生、ぼくたちはどうやって学校を決めたらよいのですか？
 ブラウン先生：そうだね、まず、高校できみは何をしたいのかな？ 私はみなさんの年齢のころ、日本語を勉強したかったの、日本語を教えてくれる学校の情報を探したよ。私の通った学校は自宅の近くではなかったけれど、日本語が勉強できるので、そこに通うことに決めたんだ。

カズ：やっと、理解できました。それでは、先生はとても長い間日本に興味があるのですか？
 ブラウン先生：その通りだよ、カズ。今、ここ日本にいます。とてもうれしいんだ。
 シホ：私は高校でバレーボールを続けたいわ。だから、説明会に参加する際に、クラブ活動について聞きたいです。
 カズ：ぼくは学校選びでほかの生徒に遅れをとっているのではないかなあ。最もしたいのは友だちをたくさん作ることで、英語の勉強も一生懸命したいと思っています。
 ブラウン先生：あつ、カミハマ高校なら国際クラスがあるよ。そして、私の友人がそこで英語を教えているんだ。
 カズ：カミハマ高校のウェブサイトを見られるかな、シホ？
 シホ：ええ、できるわ、カズ。これを見て。
 カズ：ああ、外国出身の英語の先生が7人いるね。3人がアメリカ人で、2人がイギリス人で、1人がオーストラリア出身で、残りの1人がインド出身なんだね。
 ブラウン先生：私の友人はインドの出身なんだ、カズ。
 カズ：この学校で英語を勉強するのはぼくにとってよさそうです。どんなクラブがあるんだろう？ クラブを見てみようよ。
 シホ：ここにクラブの一覧があるわ。サッカー部があるわよ、カズ。
 カズ：たぶん、高校では何かほかのことをするつもりだよ。見て！ ボランティアクラブはおもしろそうだね。さて、モモ、きみが学校を選ぶのに何が重要な？
 モモ：私は高校を卒業したあとの生徒の進路にとっても興味があるわ。そうね、見て！ これがシオイリ高校のホームページよ。このグラフを見て。

グラフ シオイリ高校の卒業生がとる進路
 大学...63% 専門学校...25% 就職...10% その他...2%

モモ：生徒の将来の進路が示されているわ。このような種類の情報から、私たちの将来について想像できるのよ。
 シホ：それは興味深いわね。この学校では60%以上の生徒が大学進学を選択して、10%が就職を選択しているわね。
 モモ：次のページを見て。昨年、14人の生徒が看護師の学校に行ったわ。私は母のように看護師になりたいの。だから、私はシオイリ高校に興味があるわ。
 ブラウン先生：きみたちがみんな自分にとっていちばんよい学校を見つけることができるといいね。幸運を祈っているよ！